

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Skipping breakfast before and during early pregnancy and incidence of gestational diabetes mellitus : the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊娠前・妊娠初期における朝食欠食と妊娠糖尿病の発症との関連について

ユニットセンター(UC)等名: 大阪UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: American Journal of Clinical Nutrition

年: 2020 月: 4 巻: 111 頁: 829-834

筆頭著者名: 董加毅

所属UC名: 大阪UC

目的: 本研究は朝食欠食と妊娠糖尿病の発症との関連について縦断的に分析する目的とした。

方法: エコチル調査全国の参加者(母親)を対象として、妊娠初期のアンケートから朝食摂取頻度によって4つのグループに分け、朝食を毎日摂取している人に比較し、その他のグループで妊娠糖尿病の発症リスクを調べた。年齢、喫煙、飲酒、学歴、職業、妊娠前の体格指数、うつ病、巨大児の既往歴、出産経歴、身体活動、食事などの交絡因子も配慮した。

結果: 朝食を毎日摂取している人に比べ、朝食摂取頻度が5-6回/週、3-4回/週、0-2回/週の人では妊娠糖尿病の多変量補正オッズ比(95%信頼区間)はそれぞれ1.09(0.93, 1.27)、1.14(0.96, 1.34)、1.21(1.05, 1.41)であった。

考察:(研究の限界を含める)

本研究は観察研究のため、未観測交絡変数、測定誤差の影響は排除できない。また、朝食の内容が把握できていないため、朝食の質と妊娠糖尿病の発症との関連は分析できない。

結論: 朝食欠食は妊娠糖尿病の発症リスクを高める可能性が示された。